

らい
来ぶらり 31

IFLA

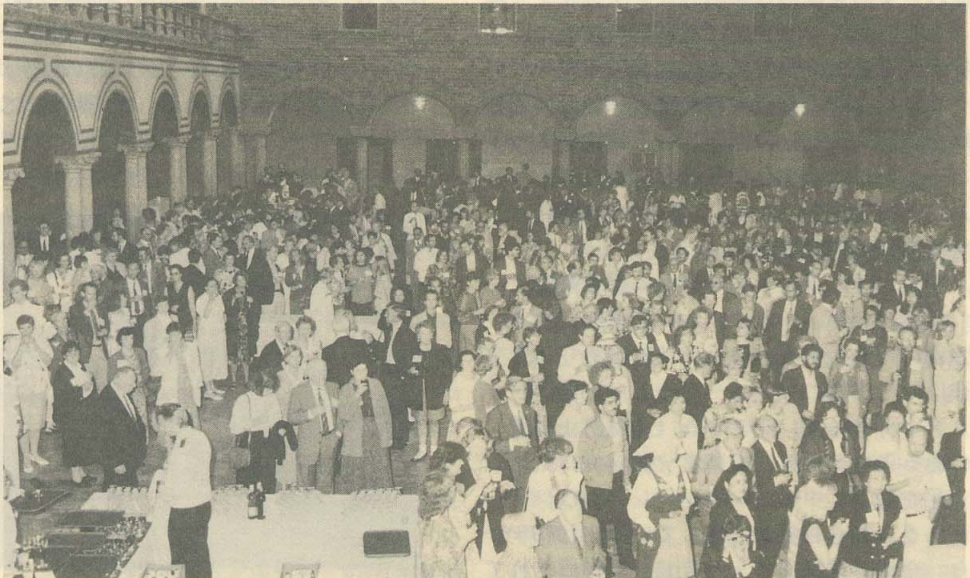
INTERNATIONAL FEDERATION OF LIBRARY ASSOCIATIONS AND INSTITUTIONS

第56回

ストックホルム大会

1990年8月20日～24日

参加リポート



ノーベル賞受賞者の晩餐会会場として有名なシティーホールで開かれた晩餐会



第56回

IFLA大会に参加して

IFLA大会

国際図書館協会連盟(IFLA)大会は今年56回目を迎え、ストックホルムでわが国から56名、全体で2000名近い参加者を集めて開催された。スウェーデン国王の歓迎の言葉で大会の幕は開かれた。続いて今年のメインテーマ「図書館：知識のための情報」のもとに、8部会32の分科会があり、参加者は自由に出席できる。しかし大会の公用語は英独仏語で、かなりの語学力がなければ、ただ「忍」の一字で聞かなければならない。主催者側もさるもので、お疲れさまの後は毎日無料のレセプションを開き、せっせと参加すれば食事代の節約と、世界の人達との交流ができるおまけもつくということになる。分科会の合間に、地元の図書館を訪見すると、大歓迎され、自腹をきってコーヒーとケーキをごちそうしてくれるハブニングまであり、うれしい出会いも経験した。

大学図書館視察記

Part1- スtockホルム大学図書館

最新のデザインがまぶしい図書館である。建物に入るとすぐカフェテリアがあり、学生達はそこで朝のコーヒーを楽しんだ後、ブックディテクションシステム(盗難防止装置)のある入口を通り、開架室・閲覧室に気忙しく足を運ぶ。中央にレファレンスカウンターがある。総合目録が完備している。1886年から「全国外国書受け入れ目録」が作成されていて、スウェーデン国内の外国図書の所在が容

易に検索できるため、かなり以前から相互貸借の制度が発達しているとのこと。機械化も進み1970年以降の目録は機械検索ができる。またオンラインで公共図書館の情報が分かり、公共図書館との相互協力も行っている。

Part2- ウプサラ大学図書館

ノーベル賞受賞者6名を出した名門大学。そのウプサラ大学図書館は1841年に建設されたカロリナ・レディビバと呼ばれる新古典様式の美しい建物である。科学関係文献を積極的に収集し、多くの貴重書を所蔵している。中でもこの図書館の宝物は1539年に描かれたスカンジナビア諸国の地図と、「シルバー・バイブル」と呼ばれる子牛皮に銀のインクで書かれた美しい写本である。前者は残念ながら見られなかったが、後者はガラスケースに展



ストックホルム大学学生食堂

示されていて、見る事ができた。

未来社会の光と影

ところでスウェーデンという何をイメージしますか？社会福祉の国、男女平等の国、戦争をしない国、ノーベル賞の国、車ボルボを生産している国などなど。まず目につくのは車が昼間でもライトをつけて走っていること。これは安全のため規定されているのだそう。スウェーデンの年間労働時間は1492時間、週5日制で5週間の休暇は保障されている。日本の労働者からみると夢のまた夢の話。医療費・教育費（もちろん大学まで）は無料である。しかし、高水準の社会福祉を支える税金は高く、収入の半分以上に及ぶ。旅行者は物価高に驚かされる。ちなみにハンバーガー1個とコココーラ1杯で約1100円なり。スウェーデンの人達もめったに家族そろってレストランで食事などはできないという話であった。ともあれ国土は日本の1.2倍、人口は日本の7%（約860万人）の国スウェーデンで、未来社会



ストックホルム中央駅

の光と影を垣間見る思いがした。

スウェーデンの大学

スウェーデンの大学の学費は無料。入学試験は無く、高校までの成績と面接で決まる。日本人学生も100人以上学んでいる。美男・美女が多い北欧の大学で学んでみませんか。

（法経図書室 千村英子）

IFLAとは 1990.10.

日本語名：国際図書館協会連盟

設立：1927年（1990年現在）

日本の加盟：1929年

加盟国：129

加盟協会：178（うち日本：6）

加盟機関：911（うち日本：9）

個人会員：154

事務局所在地：ハーグ（オランダ）

目的：図書館活動の全分野における国際的な理解、協力、研究・開発の推進



MORE NATIONALITIES THAN EVER!

"The biggest conference in the history of IFLA", says Paul Nauta, the Secretary General of IFLA

At the 1990 IFLA Conference there were...

- 129 countries represented
- 1669 delegates accompanied by 117 persons
- 160 journalists

大会期間中毎日です速報版

IFLAの中心的な事業として、コア・プログラムがある。館種を超えて、すべての図書館活

動の重要なテーマと取り組んでいるコア・プログラムは、現在次のとおりである。

- ① 第三世界の図書館振興
- ② 資料保存
- ③ 出版物の国際的入手・利用
- ④ 国際書誌調整・国際MARC
- ⑤ 国際データ流通・Telecommunication

学習院の仕事にもIFLAの影響は及んでいる。例えば、目録作成の機械化は国際書誌調整・国際MARCプログラムの成果に基づいてなされている。またIFLAの申込用紙を使用して海外から文献を取り寄せ、今年度はすでにアメリカ・ドイツ・オーストリア・スイスからコピーや本を受け取った。

コピー依頼に対して、時には海を越えて現物が貸し出されてくる。この図書館間の信頼関係もIFLA活動の成果と言える。

（編集部）

図書館の〈長く、暑かった夏〉

— 工事を終わって読書の秋へ —

7月から9月にかけては、図書館にとって、これまでになく長く、暑い夏となりました。前期試験が終わるや建物の補修工事のため外壁沿いに足場が組まれ、建物全体が緑色のネットをすっぽりかぶり、開いているのはわずかに正面玄関だけ。鳴きとよむ蟬の声にまじり、工事の騒音が響き渡ります。旧盆過ぎには、吹き付け塗装が始まり、全館のガラス扉は一面ビニールで覆われ、冷房はしていても館内は息苦しいほどでした。

とにかく、この夏は利用者の皆さんにはいろいろご迷惑をかけましたが、工事は無事に終わりました。

化粧直しを済ませて、屋上周辺は見た目



お化粧直しの図書館正面

にもさっぱりして、10月の今、秋のさわやかさを味わえる場所ともなってい

ます。

屋上といえ、煙草の吸いがら、紙コップ、弁当のからなどを捨てたり、

ガムを踏みつけたりして、ささやかな憩いの場を汚す人が見受けられるのは残念です。最上階での甲羅干しなど論外ですが、屋上内壁に腰かけたり身をもたれるのはとても危険ですので、十分ご注意ください。

去る6月に3階閲覧室に空調が入り、前期試験期には、図書館は利用者であふれました。まもなく「燈火親しむ」の候です。ふだん図書館に無沙汰の人も、気軽に〈ぶらり〉と図書館に〈来て〉みてください。サン＝ルームを吹きぬける秋風に読書のほとほりを冷ましなが、人生や芸術に想いをひそめてみてはいかがですか。

(運用課長 境 経夫)



秋を待つサン＝ルーム

編集後記

今夏は、久しぶりにハンドルを握る機会に恵まれた。美しい風景と心温まる自然を求めて、連日のように行楽地にてかけてはみたのだが……気がついた事が二つほどあった。一つは、ドライビングロードは、道に不案内な

者にとっては非常に不親切にできているということ。もう一つは、「自転車に乗る人にも自転車専用の免許が絶対に必要だ！」

ところで、日本の道路事情に似た図書館が結構ありそうである。他山の石としたい。

来ぶらり No31 1990年10月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：鈴木宗一 広瀬淳子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221